

21. 承久の乱 (1221 年)

後鳥羽上皇が朝廷に権力を取り戻すために挙兵し、鎌倉幕府と武力で衝突しました。

この動きに動揺する鎌倉の御家人たちに対し、源頼朝の妻、北条政子は「ご恩に報いて奉公せよ！」と演説し、御家人たちのテンションマックスに。幕府は大群で京都へ攻め込み、上皇軍を破りました。

いじわるじいさん、承久の乱

1221年

9. 文永の役 (1274 年)

鎌倉時代に起こった元との戦い（元寇）第1回目。

元の皇帝フビライ・ハンは、日本に服属を要求してきましたが、執権北条時宗はこれを拒否。

怒ったフビライは服属させていた高麗とともに日本に襲来。壱岐・対馬を襲い、博多湾岸に上陸。

幕府軍の一騎打戦法に対して、元軍は集団戦法で火薬を用いた武器を使用。

幕府軍は苦戦するが、暴風雨で元軍は撤退しました。

時宗の悲痛な呼びかけ文永の役

1274年

28. 弘安の役 (1281 年)

鎌倉時代に起こった元との戦い（元寇）第2回目。

7年後、前回よりもさらに大軍勢で元軍が押し寄せてきましたが、沿岸に築いた石塁と御家人たちの奮戦で上陸できず、おまけにまたも暴風雨がおこり、元軍は再び退却しました。

この2度の元の襲来を元寇といいます。

鎌倉幕府は勝利したものの、参戦した御家人たちに与える恩賞がほとんどなく、

御家人たちの不満が一気に積もり、元寇が鎌倉幕府滅亡の原因となりました。

悲痛な敗走、元逃げる

1281年

31. 南北朝の動乱 (1336 ~ 1392 年)

1336 ~ 1392 年の約 57 年間、朝廷が北と南に 2 つ存在していました。

南北朝時代が始まった理由は、後醍醐天皇と足利尊氏の対立が原因でした。

建武の新政で後醍醐天皇は公家（貴族）重視の政治だったため武士から不満が続出。

足利尊氏が挙兵し、後醍醐天皇は奈良県吉野に逃れ、一方、足利尊氏は、京都に新たな天皇を立て、

征夷大將軍に任命され室町幕府を開きました。2 つの朝廷は 3 代將軍足利義満の時代まで続きました。

いざ国統一、南北朝

1392年